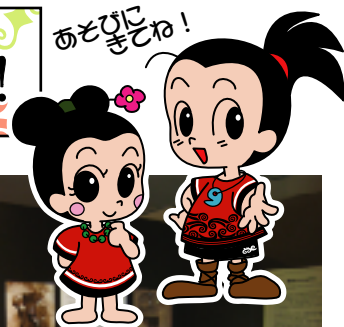


「伝えて！じょうもん人からのメッセージ」展 開催中！！

あそびにきてね！



毎年、縄文王国山梨7館(※1)ではスタンプラリーを実施していますが、今年も7月19日～11月5日の日程で実施しています。今年はスタンプラリーだけでなく、小学生を対象としたイラストコンテストも実施し、それに併せて各館で特設展示を開催しています。

特設展示は、「伝えて！ じょうもん人からのメッセージ」展と題し、人面や動物・植物文様のついた土器や、土偶を多数展示しています。北杜市埋蔵文化財センターでも、明野町の遺跡出土の遺物を中心に、武川町の向原遺跡や美原遺跡の遺物なども展示しています。明野町の遺跡出土の遺物の中には、常設展には出ていない、諏訪原遺跡出土の「人面装飾付土器」や、梅之木遺跡出土の「人面装飾付吊手土器」も展示しています。これを機会に、ぜひご覧になりに来てください。



諏訪原遺跡出土
人面装飾付土器



梅之木遺跡出土
人面装飾付吊手土器



※1 県立考古博物館・県立博物館・釈迦堂遺跡博物館・長坂郷土資料館・韮崎市民俗資料館・南アルプス市ふるさと文化伝承館・北杜市埋蔵文化財センター

これらの土器や土偶が作られた縄文時代は、どのような時代だったのでしょうか。縄文人は「森」の民だったと考えられています。豊かな自然に囲まれ、動植物とともに暮らしていました。森の中で狩りをし、木の実を採集して、食べものを手に入れていました。縄文人にとっては、それが日常の風景だったわけですから、縄文土器に描かれている文様にも、森の様子や、縄文人が感じていたことが描かれているかもしれません。今回のイラストコンテストの趣旨はそこにあります。土器や土偶を見て、縄文人が感じていたこと、つまり「じょうもん人からのメッセージ」に耳をすませ、そこからイメージを膨らませてイラストを描いてもらいたいと思っています。



コンテストの詳細などについては、研究所へお問い合わせ下さい。



イラストの例

土器には、煮炊きや運搬など、実用的に使ったと考えられるものから、埋葬や祭祀の時に使ったと考えられるものまで、さまざまあります。人面が付いたようなものは、祭祀の時に使用したのかもしれませんが、そのほとんどが意図的に壊された状態で見つかります。土偶は祭祀の時に使われたと考えられていますが、なぜ壊したのでしょうか？ 県内の釈迦堂遺跡では、1,116個という、日本全国で発見されている土偶の実に一割が見つかっています。釈迦堂遺跡とは、どのような遺跡だったのでしょうか？ (釈迦堂遺跡で発見された土偶は、釈迦堂遺跡博物館で見られます)

土器に付いた人面や土偶の顔は、実にさまざまな表情をしています。中には、目鼻口の造形が無いものもあります。今回の特設展示でも、向原遺跡出土の遺物に、そのような土器(一部)が一点あります。年代によっての表情の傾向もありますので、ぜひ、特設展示の中の「顔」をじっくり見てみてください。